

長尾能雅先生



第25回 みみはらグループ医療介護安全大会

安全な医療の実現を目指す

基本を正確に理解し、愚直なまでの徹底を！



7月12日(土)、みみはらホールにおいて医療介護安全大会が開催されました。この安全大会は、2000年6月に耳原総合病院でのセラチア菌院内感染で3人の方がお亡くなりになったことを教訓として開催され今年で25回目の大会となります。会場とWebのハイブリッド開催で約400人が参加しました。

今年の大会テーマは「いまこそともに、命をまもるパートナーズ」で全国共同行動のテーマを正面に据え、基調講演として名古屋大学医学部附属病院 病院教授 患者安全推進部長 長尾能雅先生から「患者安全の全体像と医療安全全国共同行動」と題し講演いただきました。「医療安全全国共同行動」は、医療従事者が職種の壁を越えて連携・協働することに加



田端理事長

発表演題

2024年度 総合病院の医療安全の取り組み

耳原総合病院 副病院長

医療安全管理室 室長 外山 和隆

あきらめかけた巨大褥瘡が治った！

～多職種連携とチームによるケア

みみはら訪問看護ステーション

管理師長 中山富有美

耳原版モニターアラームコントロールチーム

(MACT) はじめました

耳原総合病院 技術部 副技術部長

臨床工学科技師長 野田 修司

保険薬局の選定療養と医薬品供給不足を考える

泉州メディカ 副理事長 保坂 昌美

健康友の会 活動報告

健康友の会みみはら 会長 江戸 道子

田端理事長挨拶でのJALグレートキャプテン小林氏の言葉を引用した「愚直なまでの基本確認行動の徹底」の訴えに呼応して、長尾先生からは「平時」と「有事」の医療安全活動のループと、主に平時の医療者の基本的な活動について講演頂きました。これまでの数

々の医療ビッグバンに問わず、安全をめぐる様々な取り組みが有名無実化している実態があり、その背景に医療者の無関心・無理解がある。医療者が基本を正確に理解し、実践していくことの重要性が強調されました。

国際患者安全目標

(IPSG : International Patient Safety Goals)

1. 患者の取り違え防止
(フルネームと生年月日2つの方法で確認)
2. 医療者間の効果的なコミュニケーション
3. 高危険度薬物(ハイアラート薬)の安全管理
4. 手術・処置の安全な実施
5. 医療関連感染リスクの低減
6. 転倒・転落の予防



(4力月でやらなくなるが、2年続く習慣化する)また、国際患者安全目標(IPSG)の6項目が紹介され、基本を愚直に徹底することの大切さを学び直す機会となりました。

た。日本では唯一JCI(国際医療施設評価認証機関)の認証を受けた国立大学病院である名大病院の実践例から、品質管理手法を用いて院内の多様な課題を視覚化し、改善効果を測定しながら、改善計画を立案しPDCAを回し実践を定着させる重要性が示されました。

最後に橋本副理事長からセラチア菌事故当時の模様がリアルに語られ、当時を知る職員も少なくなりましたが、教訓を風化させず、本日の学びを明日からの業務に活かしていくと訴えられ、閉会となりました。

(同仁会 品質管理部 部長 東 朋代)

夏の

合併号のお知らせ

いつも「とも・同仁会報」をご愛読いただきありがとうございます。

9月号(9/1付)はお休み
となり、次回の発行は
10月号(10/1付)です